

令和４年度英語教育に関する学校評価（児童・保護者・学校関係者）の結果

英語特例校として、５・６年生で年間８０時間、３・４年生で年間４５時間、１・２年生で年間１０時間（３～６年は一部モジュール学習の時間を含む）取り組んできた英語教育に関する学校評価をまとめました。

【児童評価】

設問 英語に興味があり、もっと英語を勉強したいと思いますか。４

	R4 ２学期末	R4 １学期末	R3 ２学期末	R3 １学期末	R2 ２学期末	R2 １学期末
１・２年	89.0%	80.2%	86.3%	91.6%	89.3%	90.8%
３～６年	74.7%	80.2%	74.4%	76.9%	68.1%	68.8%
全校	79.6%	80.2%	78.8%	82.3%	75.2%	76.2%

※数値は、「そうである」、「どちらかといえばそうである」と回答した割合

【保護者評価】

設問 子どもは、英語に興味を持ち、英語の学習を楽しみにしている。

	令和４年度	令和３年度	令和２年度
全保護者	78.3%	71.4%	64.8%

※数値は、「よくあてはまる」、「少しあてはまる」と回答した割合

【学校関係者評価】

設問 学校は、英語教育に特に力を入れ、児童・生徒のコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の推進に積極的に取り組んでいる。

	令和４年度	令和３年度	令和２年度
学校関係者	3.3 点	3.4 点	3.5 点

※数値は、「よくできている」を４点、「できている」を３点、「あまりできていない」を２点、「できていない」を１点として計算した点数になります。

意見 ・英語教育は着実にレベルが向上しています。児童が英語に溶け込んでいるようになっています。

◇児童・保護者ともにさらに肯定的な回答が増えています。専科教員による朝のモジュール学習やALTの積極的な子どもたちへのかかわりなどが要因であると考えています。

また、授業中や休み時間には、子どもたちが専科教員やALTと楽しく触れ合い、会話をする姿が見られます。このように、学校生活の中で自然に英語を聞いたり使ったりする機会をより多く設けることで、子どもたちの英語に対する興味・関心・意欲を高めていきたいと思います。

今後も専科教員とALTを中心に、英語に楽しく触れる活動を仕組み、子どもの英語への関心意欲を高めるとともに、読む・聞く・書く力の基礎が養われるような英語学習に取り組んでいきたいと考えます。